

1 施策の実施状況

基本方針	目標	達成指標	令和5年度		取組状況の評価
			目標	実績	
Ⅰ	①あしがるバスを核とした移動利便性の向上	鉄道との乗継を考慮したあしがるバスのルート設定	実施	改正実施を受けて効果検証	市内に複数ある鉄道駅へのあしがるバスの乗り入れを継続するとともに、令和4年10月に実施したルート・ダイヤ改正について、アンケート調査等により効果検証を行った。Googleマップに反映されていることを知らない方が多かったため、引き続き周知に努めたい。
	②鉄道・バスを利用できない障害者・要介護者等を対象とした移動手段（STS（※1））の確保	タクシー料金助成制度の継続実施	実施	制度に基づき実施	障害者に対するタクシー料金助成制度及び福祉有償運送制度を継続して実施し、適切な運用を図った。 今後も福祉の推進、外出機会の確保・増加を図るとともに、障害者や要介護者等に対する安全・安心な輸送サービスを確保するため、継続実施に努める。
		福祉有償運送制度の継続実施	実施	制度に基づき実施	
Ⅱ	④地域公共交通に関する積極的な情報発信	あしがるバス利用促進イベント等の開催回数	1回以上	1回	令和5年度もバス乗り方教室や春日五条川さくらまつりでのPRイベントを開催し、バス利用の機会創出やバスロケーションシステムを知っていただくきっかけとなった。 名古屋タクシー協会から情報提供を受けた新型コロナウイルス感染防止対策に関するページを引き続き掲載した。 今後も継続して実施し、利用促進に努める。
		コミュニティバス乗り方教室の開催回数	1回以上	2回	
		タクシーに関する情報発信	実施	計画通り実施	
	⑤地域公共交通サービスの充実	バスロケーションシステムの運用	運用	計画通り運用	バスロケーションシステムを運用し、バスの運行状況を発信するとともに、お知らせ欄を活用してイベント等を周知し、スムーズな情報発信と問合せ対応をすることができた。 バス情報のオープンデータを適宜更新し、適切な情報を発信した。 今後も最新で正しい情報を提供し、活用していただけるよう周知も努めていきたい。
		バス情報のオープンデータ化	検討	継続して実施	
	⑥安心・安全かつ円滑・快適に利用できる駅前環境の整備	自転車等放置禁止区域の見回りの実施	実施	計画通り実施	定期的に自転車等放置禁止区域の見回りを実施し、自転車の放置防止に関する啓発に努めている。 清洲駅前土地区画整理事業では、区画道路の道水路築造、埋蔵文化財調査及び移転補償を行った。 新清洲駅北土地区画整理事業では、前年度から引き続き建物等の移転補償を進め、併せて雨水排水路、上下水道、ガス等の整備を行い、道路の築造を実施した。
		土地区画整理事業の推進（JR清洲駅）	実施	計画通り実施	
		土地区画整理事業の推進（名鉄新清洲駅）	実施	計画通り実施	
Ⅲ	⑦市民・交通事業者・行政の協議の場づくり	地域公共交通会議の開催回数	3回以上	3回	地域公共交通会議を3回開催し、市民アンケート調査等や地域公共交通確保維持改善事業費補助金に関する議題を中心に、市民、交通事業者、関係団体との協議を行った。 今後も、清須市地域公共交通計画に基づき、適切に会議を開催するとともに、交通事業者にも参画していただき連携を図っていきたい。
		地域公共交通会議への市民委員の参加	参加	参加	
	⑧市民ニーズの把握	市民アンケート調査等の実施	実施	実施	「公共交通に関する市民アンケート調査等」を実施し、次期地域公共交通計画に向けて市民ニーズや実際の乗車状況を把握した。

※1 STS（Special Transport Service スペシャル・トランスポート・サービス）とは、障害者、要介護者等の移動制約者を対象とした個別輸送サービスの総称。

2 施策実施の成果

基本方針	目標	達成指標	令和5年度		取組状況の評価
			目標値	実績値	
Ⅰ	①あしがるバスを核とした移動利便性の向上	あしがるバスの収支率	8.9%	9.1%	あしがるバスの収支率及び財政負担額については、長引く原油価格の高騰により燃料油脂費が高止まりしているが、あしがるバスの利用者数はコロナ禍前の状況を上回る実績で、運賃収入が大きく増えたことから目標値を達成することができた。 あしがるバスの利用者数は、どのルートにおいても未達成であった。しかしながら、どのルートも新型コロナウイルス感染症の流行前の利用者数まで回復しており、利用者の増加傾向は現在も続いている。その要因として、ルート・ダイヤ改正の内容が利用者に定着したことや継続して実施している利用促進事業によりバスを利用した方が増えたと推察される。 今後も、新規利用者の獲得に向けて、イベント等に合わせて利用促進施策を継続実施するとともに、利用方法やバスロケ等の活用の周知に努める。
		あしがるバスを利用したことがある人の割合（※2）	基準値（16.0%）から上昇	27.9%	
		あしがるバスの利用者数（年間）	97,500人	86,587人	
		（【参考】オレンジ グリーン サクラ ブルー	18,600人 29,000人 31,300人 18,600人	15,311人 27,141人 27,402人 16,733人	
		あしがるバスの利用者数（1便あたり）	6.2人	5.3人	
		（【参考】オレンジ グリーン サクラ ブルー	4.7人 7.3人 7.9人 4.7人	3.9人 6.9人 6.9人 3.9人	
		市の財政負担額（利用者1人あたり）	833円	809円	
Ⅱ	③市内観光施設を巡る移動手段の確保	レンタサイクルの利用者数（年間）	150人	227人	不特定多数の人手が見込まれるイベント等が再開し、清洲城の来場者数もコロナ禍前以上まで回復していることもあり、レンタサイクルの利用者数も目標が達成できた。 今後も引き続き観光誘客の促進と合わせて事業の周知に努める。
	④地域公共交通に関する積極的な情報発信	あしがるバス一日無料デーの参加者数	400人程度	444人	あしがるバス一日無料デーは、過去最多の利用があった昨年の記録を更に上回り、多くの方に利用していただいた。あしがるバスでまつり会場まで行けることが多くの方に認知していただき、会場までの移動手段として、初めて利用してみた方も多くおられたと考えられる。 今後も、新規利用者の獲得や継続利用のきっかけづくりとして継続して実施していく。

※2 市民満足度調査結果により測定。